

安全情報

2018年5月15日

日本造血細胞移植学会移植認定診療科責任医師 各位

移植医師 各位

登録医師 各位

(公財) 日本骨髄バンク 医療委員会

骨髄液バッグに連結管を接続する際に起きたバッグの破損について

拝啓 日頃より骨髄バンク事業にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、この度、骨髄液バッグの破損事例がありましたので情報提供いたします。

詳細は別紙「移植施設からの報告（全文掲載）」をご参照ください。

各先生方におかれましては、日頃より十分にご配慮いただいていると存じますが、
今一度、貴施設の関係する先生方にもご周知くださいますようお願い申し上げます。

敬具

< 参考情報：同様事例の過去のご案内 >

http://www.jmdp.or.jp/medical/notice_f/post_135.html

http://www.jmdp.or.jp/medical/notice_f/post_134.html

http://www.jmdp.or.jp/medical/notice_f/post_133.html

移植施設からの報告（全文掲載）

■輸注開始時に骨髓液バッグが破損した事例

1、経過

2018年4月、17時20分頃骨髓液が到着。3バッグに分注されていた。18時10分頃より輸注を開始。1バッグ終了後、20時頃に残る2バッグを連結管にて連結したところ、連結挿入付近に破損が生じ、小さな穴がバッグに開いた。そのためバッグ表面に骨髓液が漏れた。漏れた量は、バッグの表面に付着した程度で、アルコール綿数枚で拭き取れる量であった。破損したバッグに入っていた骨髓液は、連結管を通してもう一方のバッグに移し替え、その移植は無事に終了した。

2、考えられる原因

連結管の穿刺部位の長さがバッグの連結部位より長いため、挿入時にバッグがまっすぐになっていなかったためと思われる。

3、再発防止策

上記が起こることは以前の報告より認識していた。バッグを斜めに持って連結部位に連結管を刺したためと思われる。今後はバッグを垂直にした状態で連結する必要がある。

4、患者さんへの説明

上記の経過を説明した。漏れた量は1ml以下であること、感染に関しては今後慎重に経過を見る必要があることを説明した。

以上

(写真)

